



## “楽しむ”の薦め 産学官連携に携わって思うこと



**安平次重治** Shigeharu ANPEIJI

UBE 株式会社 (公益財団法人中国地域創造研究センター 出向),  
日本化学会 元 ATP 小委員会委員長 元化学フェスタ実行委員

昨年、二刀流でメジャーリーグを席卷した大谷翔平選手は、その挑戦について「良かったこと、悪かったことも含めて楽しめた」と語っています。チームの監督も、「彼の活躍の原動力は楽しむ力だ」と言っていました。日本人は「必死に一生懸命取り組む」ことを美德とし“楽しむ”ことは不謹慎とも捉えがちですが、“楽しむ”ことはすべてにおいて、特に研究開発や産学官連携においてはとても大切なことではないでしょうか。

筆者自身のことを申し上げて恐縮ですが、私は12年前に縁あって化学系学協会の産学官連携に関わり、日本化学会では「春季年会 ATP (現 CIP)」や「CSJ 化学フェスタ」等の企画・運営など、日本化学工業協会では「化学人材育成プログラム」の立ち上げ、新化学技術推進協会 (JACI) では「戦略提言部会」など、様々な取り組みに携わってきました。5年前に現職に出向してからも、中国地域における医療関連の産学官連携に携わっています。この間多くの皆様とご一緒させていただきましたが、振り返ってみますと、ここに携わっておられた皆様は、専門分野も立場も異なる様々な方々との交流・連携を“楽しまれていたな”と実感しています。

持続可能社会の構築が叫ばれる今、多くの産業分野の川上に位置する化学には、「資源消費社会から循環・再生社会へ」というパラダイムシフトを目指す真のイノベーション (新たな価値創造とその社会実装) の主役となることが求められています。そのためには個々の研究の進展は当然必要ですが、それに加えて、化学も含めた多様な研究分野の産学官の関係者が連携して総力戦で取り組むことが何よりも大切だと思います。化学研究者の世界だけに留まらず、学際や産学官の垣根を超えて多くの関係者と幅広く交流し連携することを“楽しめる”人材こそが、イノベーションの担い手 (イノベーター) となれるのではないのでしょうか。

春季年会の ATP ポスターや CSJ 化学フェスタの学生ポスターは、若手研究者や学生諸子が様々な分野の企業・大学・国研等の研究者と議論し審査・評価されることにより、学際や産学官の垣根を超えた交流を“楽しめる”場だと思います。少し大袈裟かもしれませんが、未来のイノベーターを育む培養箱 (インキュベーター) と言えるかもしれません。「産学官連携の最大の成果は人材」という意見もあるように、このような地道な取り組みにより交流を“楽しむ”人材が育っていく中から、持続可能社会の扉を開くイノベーターが出てくることを願っています。若手研究者のみなさん、「新たな価値」を胸に秘め、「未知との遭遇 (交流・連携)」を“楽しみ”ましょう。

© 2022 The Chemical Society of Japan